



高原の自然館ニュースレター

# 苅尾電波塔

第 49 号

2008.2.1

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。  
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」  
の名前をつけています。

## も く じ

### お知らせ

- ー 冬季閉館について
- ー 八幡湿原自然再生工事が進行
- ー 『苅尾 第 16 号』の原稿を募集

### 活動報告

- ー アニマルトラッキング

### 観察会案内

- ー スノートレッキング

### 今後の観察会予定

- 2月 17日 スノートレッキング
- 3月 9日 スノートレッキング

## お し ら せ

### ● 冬季閉館について

冬季閉館中の連絡先は、次のとおりとなります。  
観察会の申込み等にご利用ください。

メール：staff@shizenkan.info（これまでどおり）  
電 話：0826-72-0864  
（北広島町教育委員会 生涯学習課）  
ファックス：0826-35-0386（代）

### ● 八幡湿原自然再生工事が進行しています

環境省が補助し、広島県が行う「八幡湿原自然再生事業」の工事が二川キャンプ場の近く、霧ヶ谷で進んでいます。雪は降っていますが、導水路を設置した場所には水が流れているようです。

### ● 『苅尾 第 16 号』の原稿を募集

西中国山地自然史研究会の『苅尾』の原稿を募集しています。内容は西中国山地の自然や動植物に関する情報や自然に関わる活動報告、自然賛などで、600～1600字程度にまとめてください。写真を大歓迎します。あなたの見つけた小さな発見を、会員のみなさんにも伝えてください。

## 観 察 会 報 告

### ● アニマルトラッキング

開催日時：2008年1月20日（日）10:00

講師：上野吉雄

前日からの積雪で、雪のあるアニマルトラッキングができました。しかも朝から雪の降る中での観察会となり、なんとか八幡にたどり着いた人もあったのでは。20名で雪原へと出発しました。朝からの新雪で、新しくてくっきりとした足跡というのは難しかったのですが、ウサギは軟便と固い便の2種類のフンをして、軟便はもう一度食べることや、前足の丸い跡・後ろ足の長い跡がどのように付くのかを、実演しながらの説明がありました。その後もウサギの足跡は比較的たくさん見ることができました。エゾユズリハにはヤマドリの食痕があり、ネズミの足跡はくっきりと付いていておそらくツルウメモドキを食べに来たのかな？と推察しました。木上で採餌できる鳥は、雪が降っても留鳥でとどまることができるようで、実際にカラ類やアカゲラ・ツグミ・ジョウビタキを観察できました。また、先生も今冬初めてというキレンジャク・ヒレンジャクの混群を見ることもできて感激でした。ツルウメモドキを食べたツグミのフンも確認できました。積雪で判別が難しかったのですが、おそらくテンと思われる足跡もたくさんありました。イタチの仲間は指が5本、イヌの仲間のキツネやタヌキは指が4本と説明してもらいました。クリの木にクリタマバチの虫こぶがあり、ヤマユガの繭も枯れ葉にくるまって残っていました。腹のバネで飛ぶ原始的な生物トビムシや、羽が2枚の昆虫ガガンボなども教えてもらってやっと見ることができました。雪の中にもたくさんの生物の痕跡を観察することができて、やっぱり楽しい観察会でした。[や]



マイナス1.5℃の世界に出発！さっそくテンの足跡を見つけた。

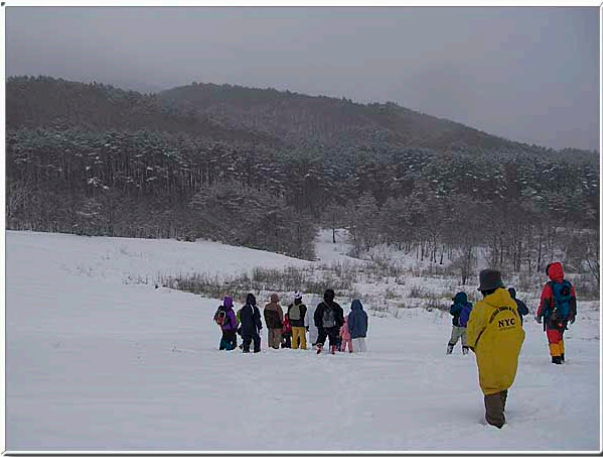


常緑のエゾユズリハは、冬の重要な食料になる。ヤマドリが嚙ったあとが見られた。



鋭く切った切り口はうさぎの食痕。





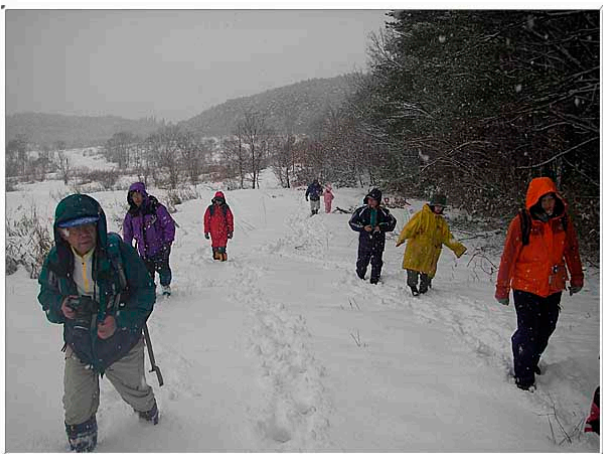
千町原の扇谷を降りていく。苅尾の山頂は遠くに霞んでいた。



自然館に戻って、今日観察した生き物を図鑑で確認した。



ハンノキ林に続く足跡をたどると、ツグミのフンを見つけた。フンには、ツルウメモドキの実が入っていた。



秋に草刈りをした場所を歩いて戻った。

### 【みなさんの印象に残った物】

「雪の上の足跡が、どこに行くのか、とてもついて行きたくなった。」「鳥と果実の共進化(?)のお話がとても興味深かったです。」「ヤドリギの実がおいしかったということです。」「動物の足跡や鳥の種類の見分け方などが少し分かりました」「ねずみのあしあと」「ヤドリギの実と触感」「キレンジャクの群(4)」「ネズミの足跡」「レンジャク キツツキなど留鳥」「キレンジャク・ヒレンジャク」「ノウサギの生態のお話」「ウサギ、テンの足跡」「寒い冬でも小動物の生き方等」

### 【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「楽しかったです。(3)」「方法を考えて、カメラや双眼鏡などしっかり備えて全てを記録できたらよかったです後悔しています。とても勉強になりました。」「自然の探索はやはり面白いですね」「雪のふる中を歩いて気持ちよかったです。」「雪が少ないようでしたが 足跡なども見ることができて楽しかったです。」「久しぶりの雪の観察会で楽しかったです。」「木鳥動物等々の変化をみた」「雪の中を歩きとても楽しかった」「冬でもよく観察すれば いろんな自然が楽しめる感激」「雪の中でも生物の生きている様子がわかった」「雪があつて良かった」「雪が降って良かったです」「もう少し時間長く」

## 観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

**基本セット**：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳  
**作業セット**：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

### ● スノートレッキング

開催日時：2008年2月17日(日) 10:00  
3月9日(日) 10:00

集合場所：高原の自然館

準備：基本セット、弁当、スノーシュー・歩くスキーなど

定員数：30名

参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円)

雪の草原を歩きましょう。寒い中、みんなであるくとたくさんの発見があるかもしれません。あたたかい飲物などを持参し、ご参加下さい。



### － インターネット版苅尾電波塔の紹介と購読移行のお願い－

苅尾電波塔はインターネットを利用した e-mail でも発行されています。印刷版と同じ情報が毎月あなたのメールアドレスに届きます。さらに e-mail なら、関連ホームページを見たり、そのまま返事することで観察会の申し込みができたり、とっても便利です。パソコンで e-mail をお使いの方ならどなたでも無料で申し込みができます。まずは高原の自然館ホームページをご覧ください。

高原の自然館ホームページからは、苅尾電波塔(紙版)の pdf ファイルをそのままダウンロードできます。郵送している紙版に比べ、鮮やかなカラー写真を見ることができ、ダウンロードしたファイルはご家庭のプリンタを使って印刷することもできます。そこで、高原の自然館では紙版(郵送)からインターネット版への購読移行をお願いしています。今後、紙版の郵送が不要な方は、高原の自然館までご連絡ください。みなさまのご協力をお願いいたします。

【高原の自然館】<http://shizenkan.info/>

やっと雪景色が帰ってきました。去年はほとんど雪が降らなかったの、気分的には2年振りの、芸北の冬です。ただ、その量は少なく、地吹雪が吹き荒れるような日も無かったように思います。生活していく上で楽なことは良いことなのですが、言いようのない不安が、そこはかたなく暮らしている人たちの中にあるようです。「本格的な冬」は、またいつかやってくるのでしょうか？

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先  
(ご意見・ご感想もお待ちしております)

高原の自然館(こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1

tel. & fax : 0826-36-2008

<http://shizenkan.info/>

[staff@shizenkan.info](mailto:staff@shizenkan.info)